

第189回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2021年8月下旬～9月上旬
調査対象期間	2021年7月～9月実績 2021年10月～12月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,723社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	714社
回答率	41.4%
調査方法	調査票郵送により回収
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 [例:売上DIの場合] 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	36	23	38	9	30	21	3	42	202	28.3%	28.3%
5～10	62	24	9	8	36	13	5	13	170	23.8%	52.1%
11～20	70	20	6	4	22	7	10	4	143	20.0%	72.1%
21～30	24	6	2	1	6	6	10	0	55	7.7%	79.8%
31～50	28	7	1	4	7	8	3	3	61	8.5%	88.4%
51～100	15	5	2	0	7	5	7	4	45	6.3%	94.7%
101～	10	5	1	0	1	6	3	1	27	3.8%	98.5%
無回答	1	2	1	1	1	0	1	4	11	1.5%	100.0%
計	246	92	60	27	110	66	42	71	714	100.0%	
構成比	34.5%	12.9%	8.4%	3.8%	15.4%	9.2%	5.9%	9.9%	100.0%		



(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.9%	10.2%	1.2%	1.2%	0.8%	10.6%	5.7%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
2.0%	11.4%	0.4%	3.7%	33.2%	3.7%	11.0%

売上DIは-23.1（前回比+3.3ポイント）、収益DIは-26.6（前回比+1.3ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上DIは1.0ポイント、収益DIは0.4ポイント下振れしています。その要因は、緊急事態宣言延長の影響が大きく、飲食業や小売業、運輸業では売上DIが前回比マイナスとなり、これまで回復をリードしてきた製造業でも+3.9ポイントの上昇に止まりました。

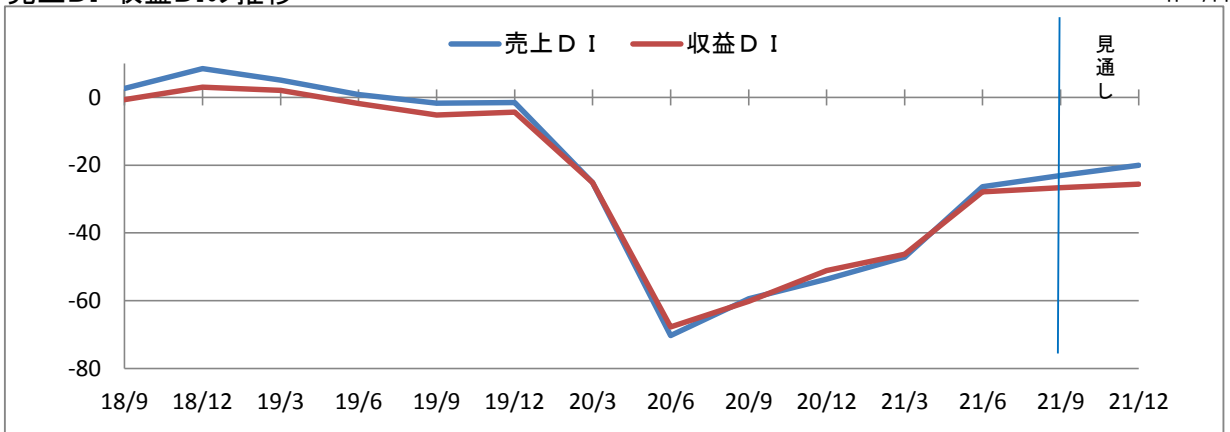
2021年10-12月期は、売上DIが3.1ポイント、収益DIが1.0ポイント上昇すると予想しています。

ワクチン接種率が更に上昇し宣言解除後の経済回復に期待していますが、今後の感染状況はどう推移するのか、コロナ禍での事業展開に大きな不安を抱えています。

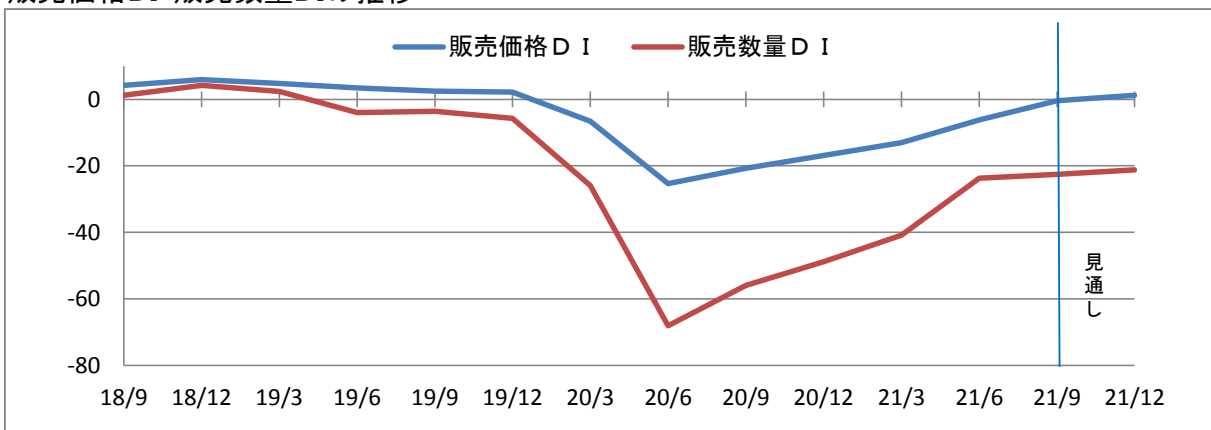
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が66.7%（前回比△5.0ポイント）と依然最大ですが、「仕入単価上昇」が61.3%（前回比+7.4ポイント）に急上昇しました。飲食業や卸売業、製造業ではそれぞれ80.8%、74.4%、72.7%となり、食材や鋼材、木材などの価格上昇が、収益に悪影響を及ぼしています。

設備投資は「実施中」が12.2%（前回比+1.0ポイント）、「予定あり」が12.5%（前回比+0.4ポイント）で合計24.7%と引続き高水準を維持し、経済活動再開に備えています。中小企業でも新事業参入や事業転換を考える企業が多く、事業再構築補助金が設備投資意欲を支える大きな要因と思われます。内容は「機械の新設・増設」が34.5%、資金調達方法は「全て自己資金」が46.8%となっています。

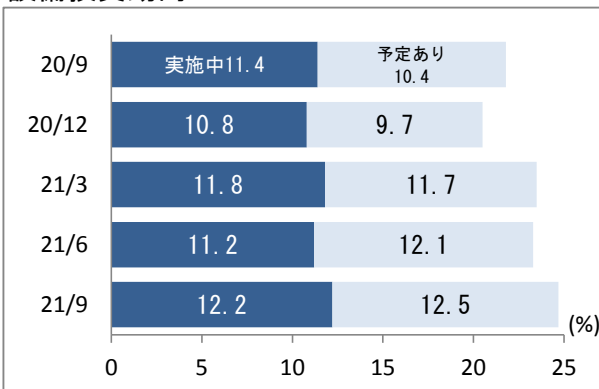
売上DI・収益DIの推移



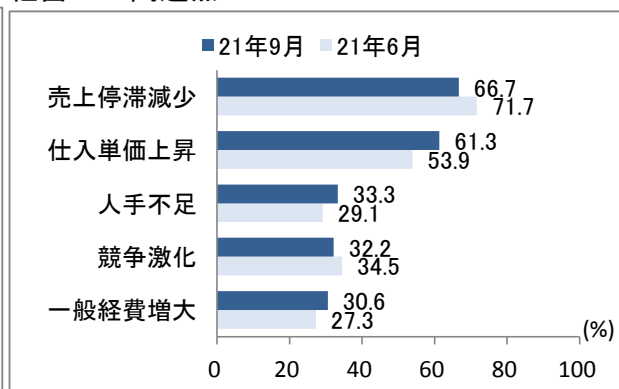
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士:平山)

製造業

回復に水差す 材料価格高騰

売上DIは-16.3（前回比+3.9ポイント）、収益DIは-20.5（前回比△1.3ポイント）となりました。前回調査時の7-9月の見通しから売上DIは2.2ポイント下振れし、収益DIは0.2ポイント上振れしています。半導体など電子部品の輸出は好調ですが、緊急事態宣言が9月末まで延長されイベント中止などの影響を受ける製造業も多く、業況回復ペースはダウンしました。

2021年10-12月期は、売上DIが0.1ポイント、収益DIが2.1ポイント下落すると予想しています。ワクチン接種率は上昇していますが、経済活動再開への課題は多く景気の先行き不透明感が残り、予断を許さない状況です。

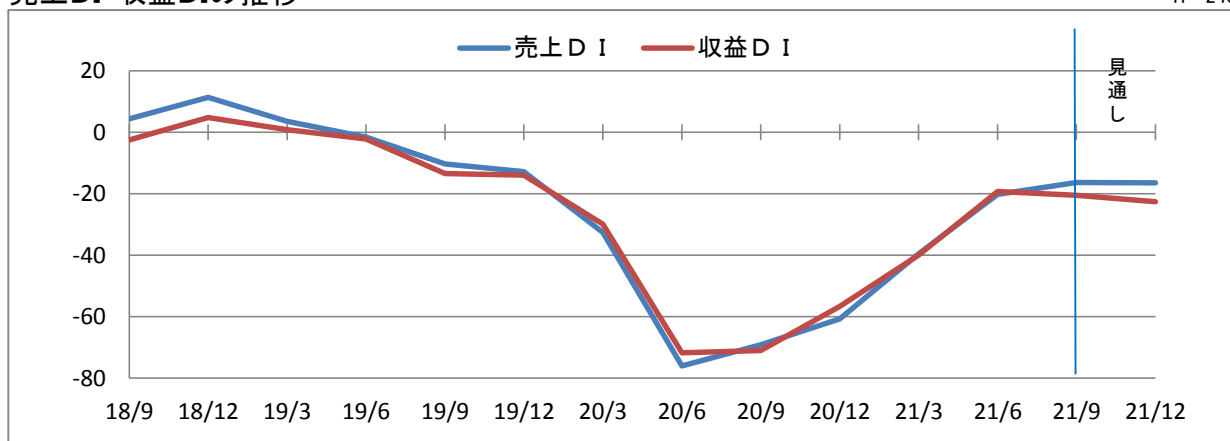
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が72.7%（前回比+5.8ポイント）と最大の問題点となりました。鉄鋼など原材料価格の上昇や部材の調達難は来年まで続くと予想する企業も出てきています。中小企業は仕入価格の上昇を販売価格へ転嫁することが難しく、今後収益への悪影響が懸念されます。

設備投資は「実施中」が14.9%（前回比+1.4ポイント）、「予定あり」が15.4%（前回比+1.9ポイント）で合計30.3%となり、宣言解除後の経済活動再開に向け、設備投資意欲は旺盛です。

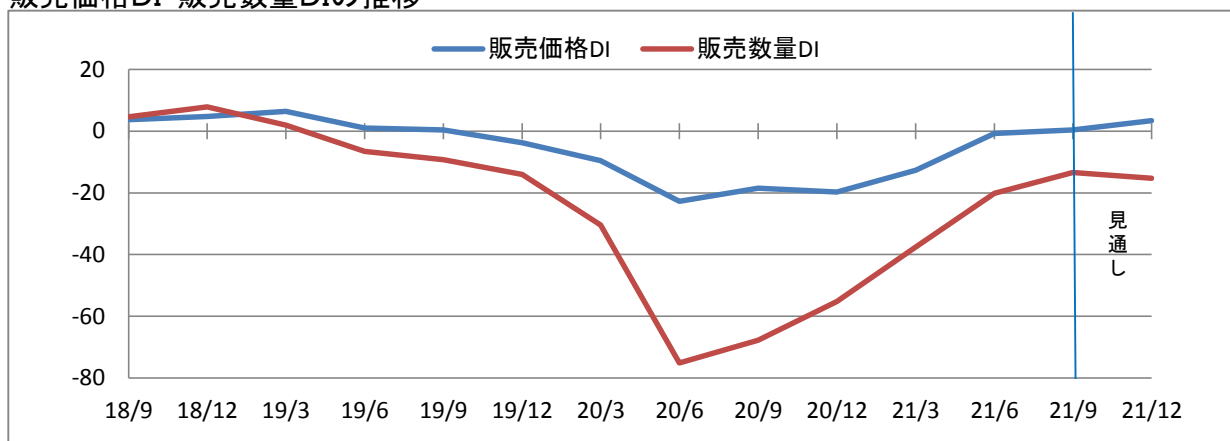
また、事業再構築補助金を活用して事業モデル転換を考える企業も増加していると思われます。

売上DI・収益DIの推移

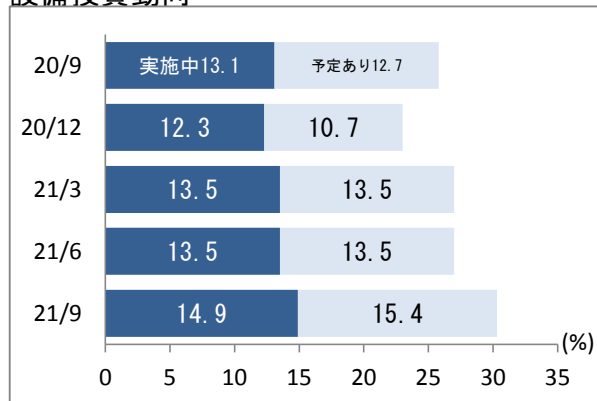
n=246



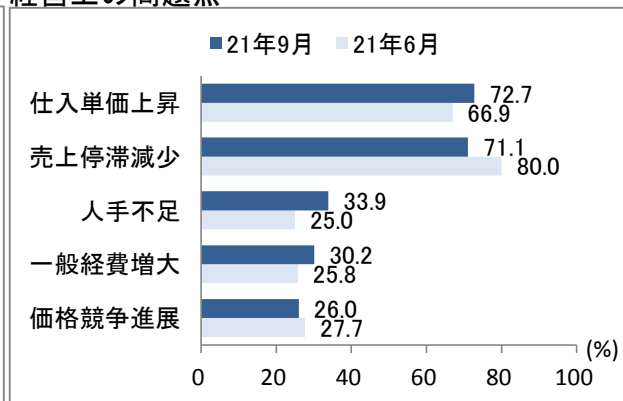
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 稲津、萩原)

卸売業

巣籠もり需要に期待

売上D Iは-18.5（前环比+8.7ポイント）、収益D Iは-28.2（前环比+1.1ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは7.6ポイント、収益D Iは0.3ポイント上振れしています。緊急事態宣言下、巣籠もり需要により「プチゼいたく」を楽しむ消費者が増加したことなどが上振れした主な要因と思われます。

2021年10-12月期は、売上D Iが17.4ポイント、収益D Iが19.5ポイント上昇すると予想し、宣言解除や年末に向けた個人消費マインドの回復に大きな期待を寄せています。

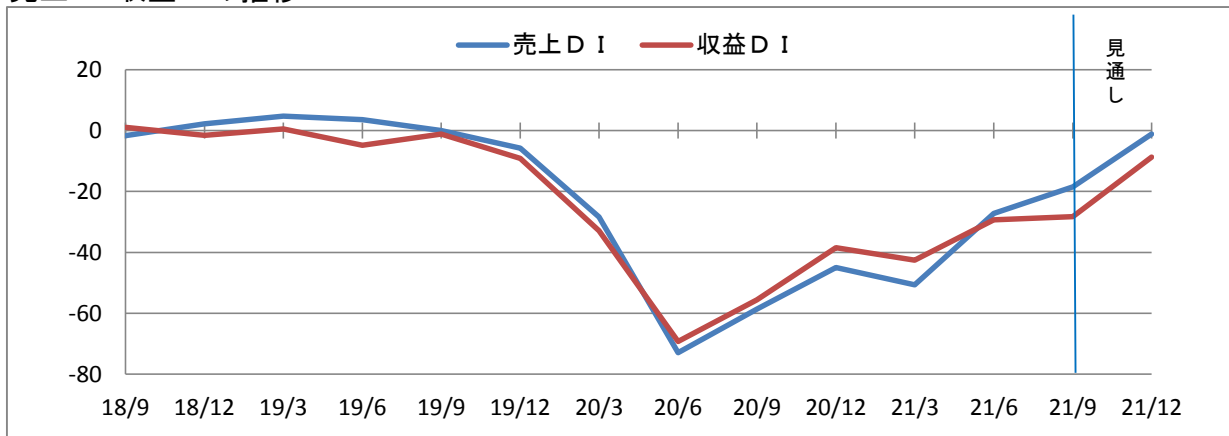
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が74.4%（前环比+19.5ポイント）と最大の問題点となりました。経済回復や天候不順により食材から鉄鋼、木材など幅広い商品の仕入価格が上昇し、問題は深刻化しています。

設備投資は「実施中」が7.0%（前环比+4.7ポイント）、「予定あり」が10.5%（前环比+2.5ポイント）で合計17.5%となり、宣言解除を見越し、設備投資意欲は上向きました。

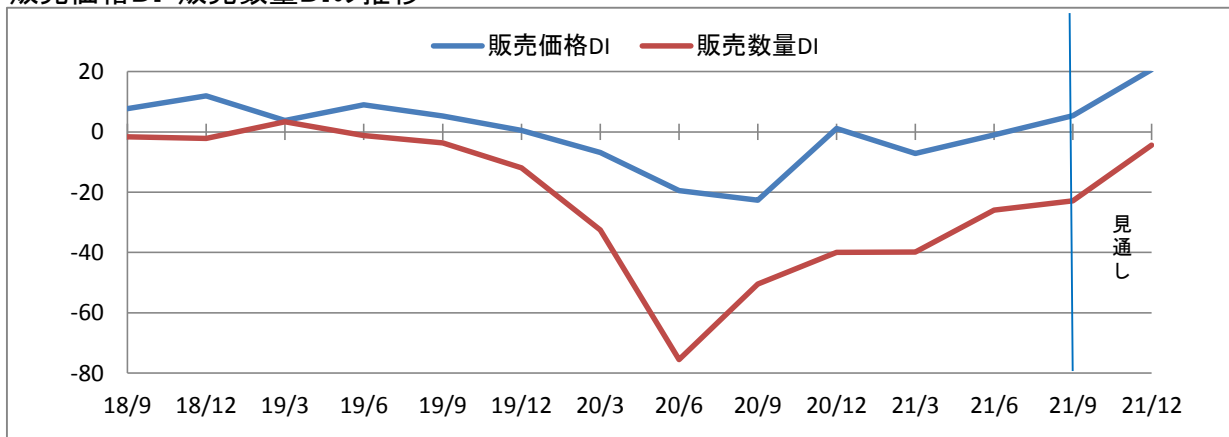
内容は「事務所、店舗、工場等の保守・更新」が30.8%、資金調達方法は「全て自己資金」が69.2%となっています。

売上DI・収益DIの推移

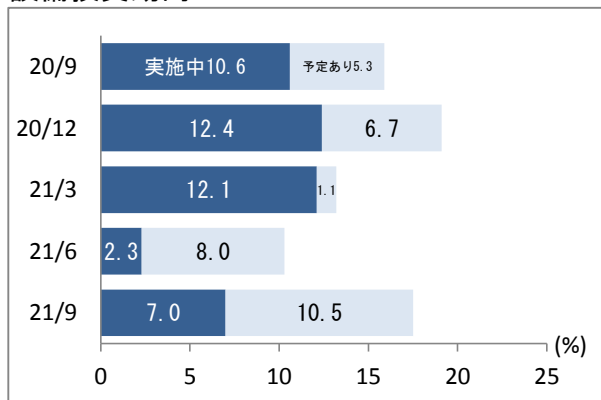
n=92



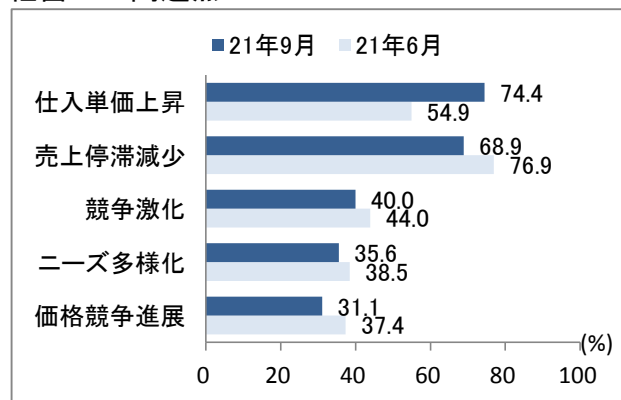
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士:萩原、福井)

小売業

苦戦？ 年末商戦

売上D Iは-45.0（前回比△14.3ポイント）、収益D Iは-49.1（前回比△12.0ポイント）とともに大きく下落しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは7.9ポイント、収益D Iは5.6ポイント下振れしています。催事販売など一部再開されましたが来場者数は制限され、緊急事態宣言延長による影響が大きく出ています。

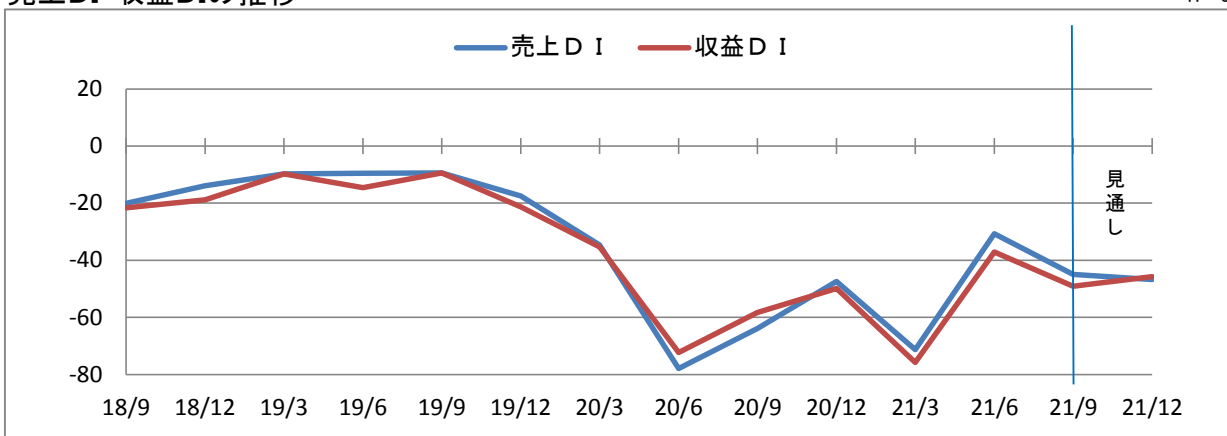
2021年10-12月期は、売上D Iが1.7ポイント下落、収益D Iが3.4ポイント上昇すると予想しています。ワクチン接種率は上昇しましたが、個人消費マインドが回復するのか不安要素は多く、年末商戦は厳しく考えています。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が62.7%（前回比△5.6ポイント）ですが、「ニーズ多様化」が50.8%（前回比+9.1ポイント）、「仕入単価上昇」が44.1%（前回比+4.1ポイント）に上昇し、多岐に渡る問題点への対応を迫られています。

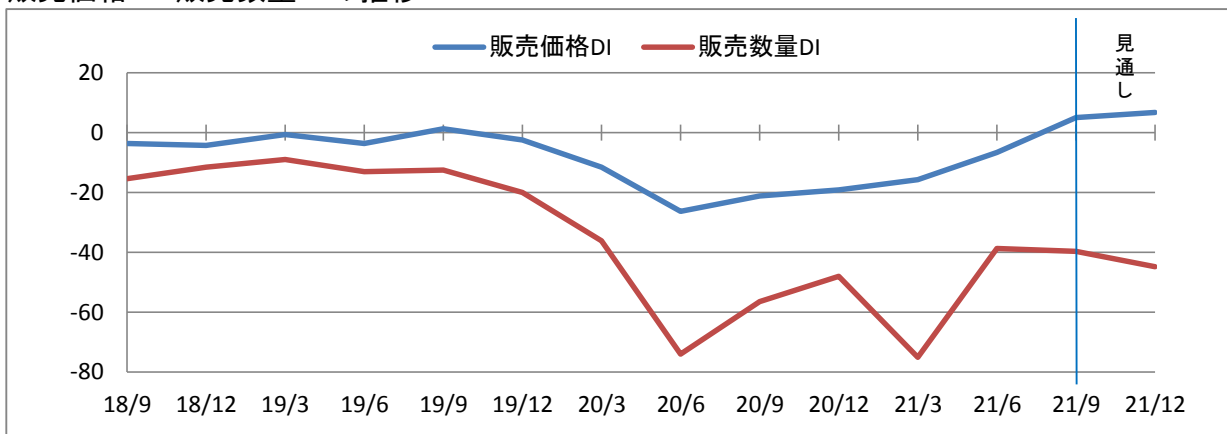
設備投資は「実施中」が10.3%（前回比+3.4ポイント）、「予定あり」が6.9%（前回比±0）で合計17.2%と上昇しました。内容は「機械等の新設増設」が40.0%、資金調達方法は「一部借入する」が40.0%となり、経済活動再開に向け準備を始めています。

売上DI・収益DIの推移

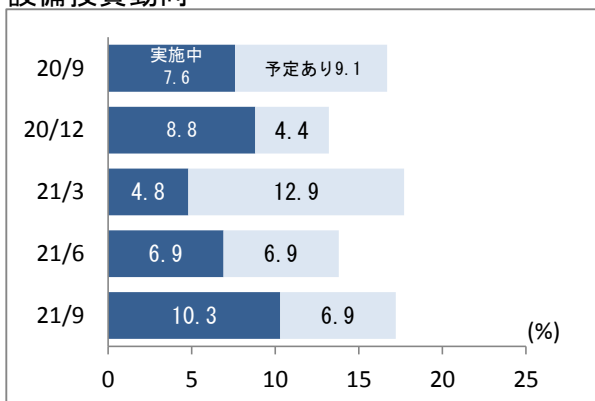
n=60



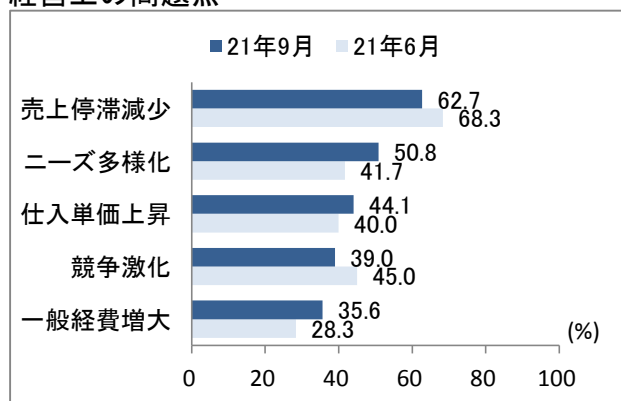
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 宗和、福井)

飲食業

混在する期待と不安

売上D Iは-63.0（前回比△20.2ポイント）、収益D Iは-57.8（前回比△3.6ポイント）とともに下落しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは25.9ポイント、収益D Iは12.1ポイント下振れしています。緊急事態宣言期間延長の影響は深刻で、飲食業は苦境に立たされています。

2021年10-12月期は、売上D Iが3.0ポイント、収益D Iが4.0ポイントとともに上昇すると予想し、感染対策と忘年会など年末商戦への期待と不安が混在しています。

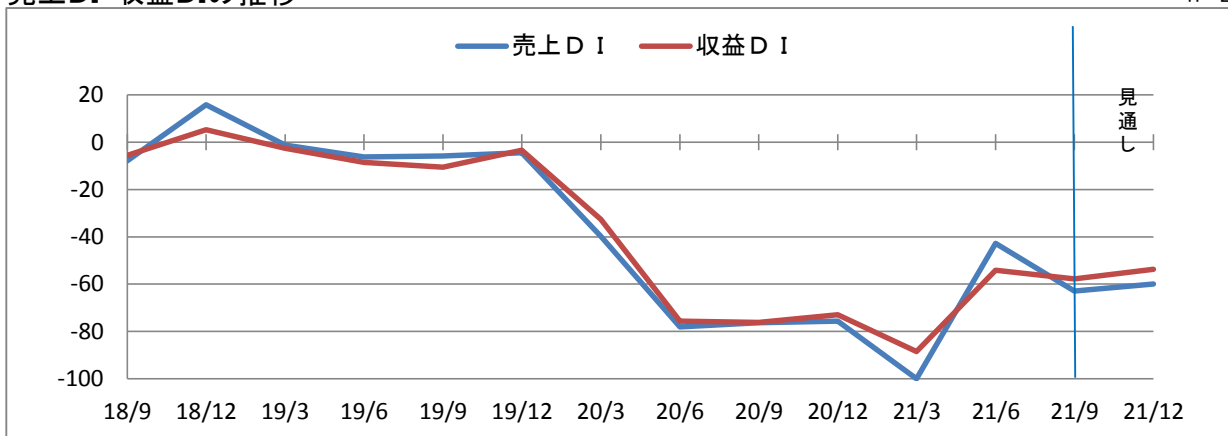
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が80.8%（前回比+23.2ポイント）と前回から急上昇し最大の問題点となりました。長雨の影響による野菜の価格高騰だけでなく、輸入食材や食用油の相次ぐ値上げが事業に追い打ちをかけ、収益への悪影響が懸念されます。

設備投資は「実施中」が11.5%（前回比△0.3ポイント）、「予定あり」が23.1%（前回比+2.5ポイント）で合計34.6%となり、宣言解除後を睨んだ積極的な設備投資を考えています。

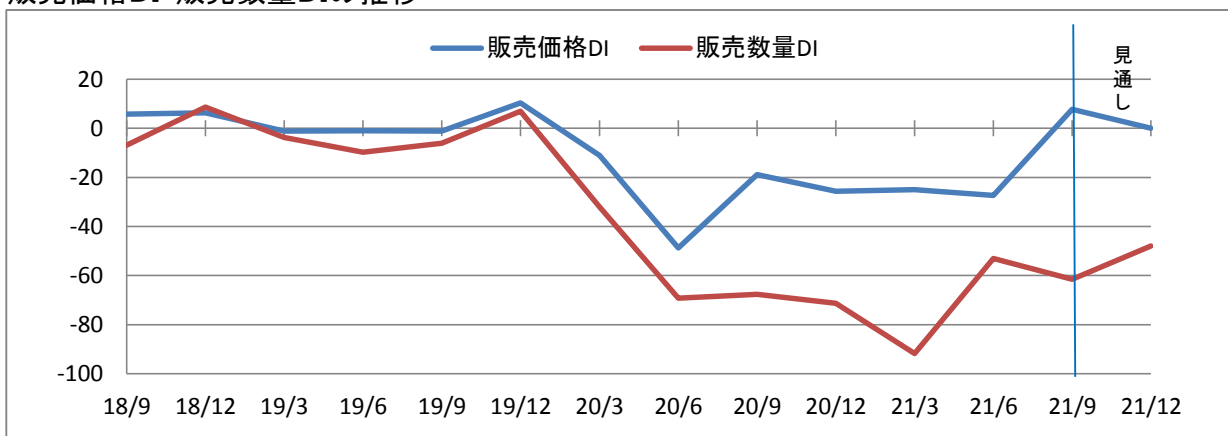
内容は「事務所、店舗、工場等の新設増設」が66.7%、資金調達方法は「全て自己資金」が57.1%となりました。

売上DI・収益DIの推移

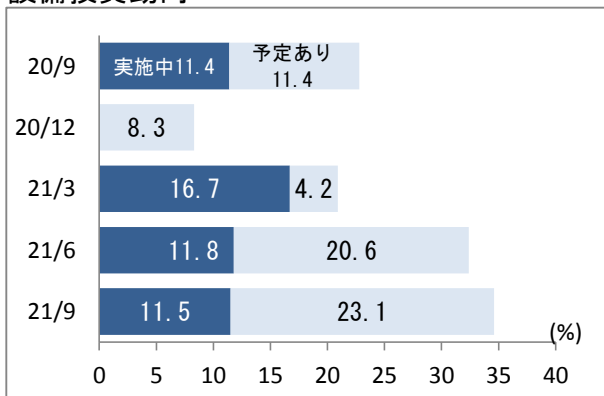
n=27



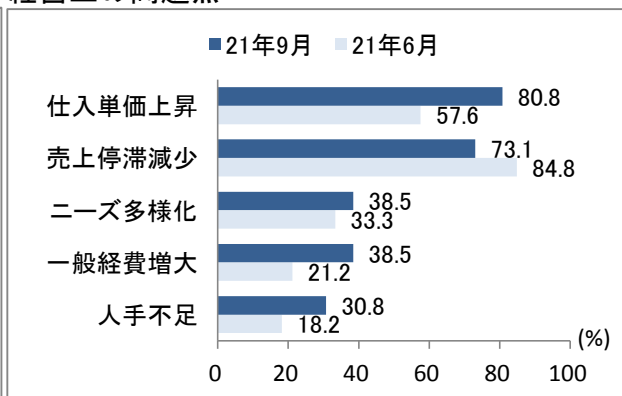
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 仲井、竹並)

建設業

材料高騰 厳しい価格転嫁

売上D Iは-22.7（前回比+12.4ポイント）、収益D Iは-29.0（前回比+5.2ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは6.5ポイント、収益D Iは6.9ポイント上振れしています。公共工事請負件数・金額累計は対前年比増加に転じました。しかし、突然の工事の遅延や業者の変更による日程調整に苦慮する企業が多く、思うような回復を図れない状況です。

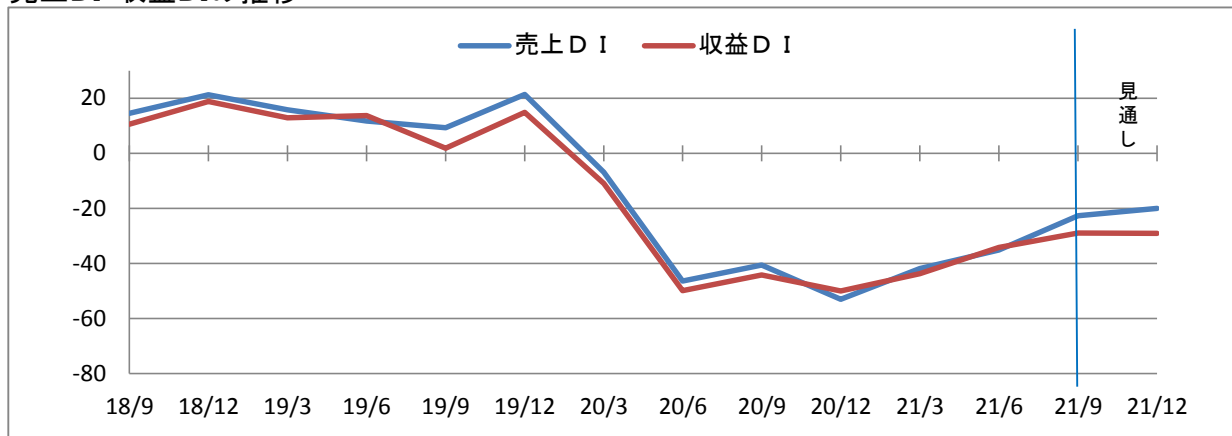
2021年10-12月期は、売上D Iが2.7ポイント上昇し、収益D Iが0.1ポイント下落すると予想しています。ベトナムのロックダウンにより温水洗浄便座の入荷が遅れ、今後、物件引き渡しが遅れる懸念があります。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が65.1%（前回比+10.1ポイント）、「売上停滞減少」が63.2%（前年比△5.3ポイント）となりました。木材や建築金物など材料価格上昇はさらに深刻さを増し、今後収益への悪影響が懸念されます。

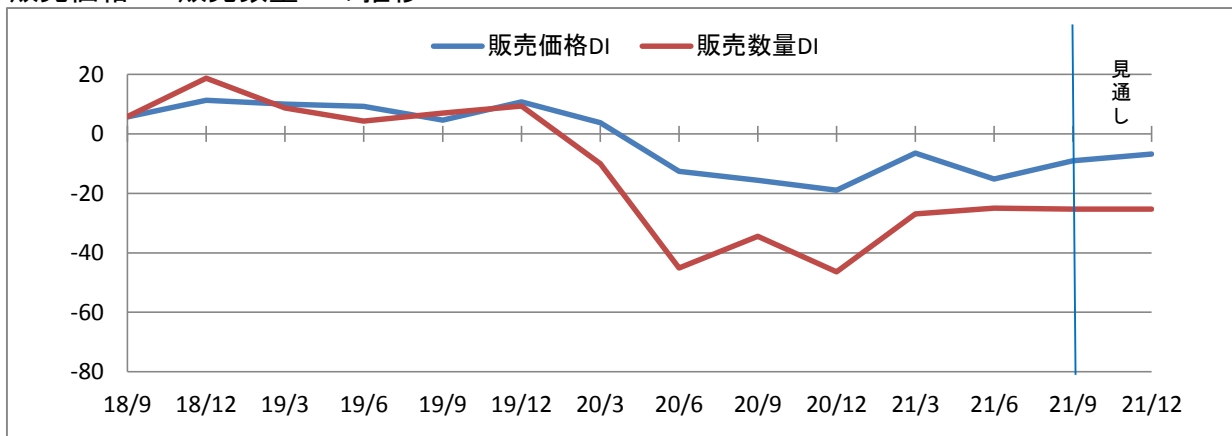
設備投資は「実施中」が11.2%（前回比△0.6ポイント）、「予定あり」が9.3%（前回比+0.2ポイント）で合計20.5%となりました。内容は「車両」が47.6%、資金調達方法は「全て自己資金」が45.0%となっています。

売上DI・収益DIの推移

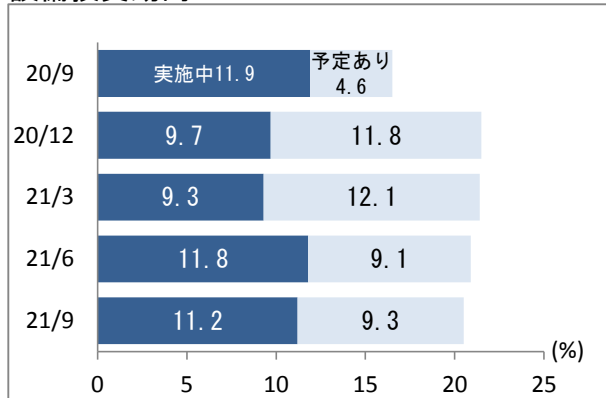
n=110



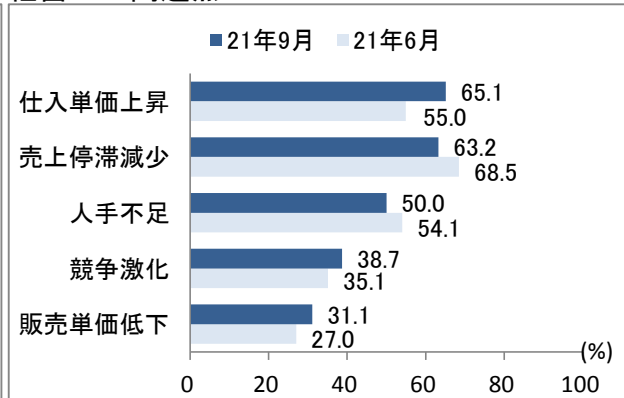
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士:仲井、楠)

サービス業

どうする感染対策 このままでいいの？

売上D Iは-28.1（前环比+5.2ポイント）、収益D Iは-29.7（前环比+11.0ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは2.2ポイント、収益D Iは3.8ポイント下振れしています。緊急事態宣言と期間延長の影響は大きく、想定よりも回復が遅れています。

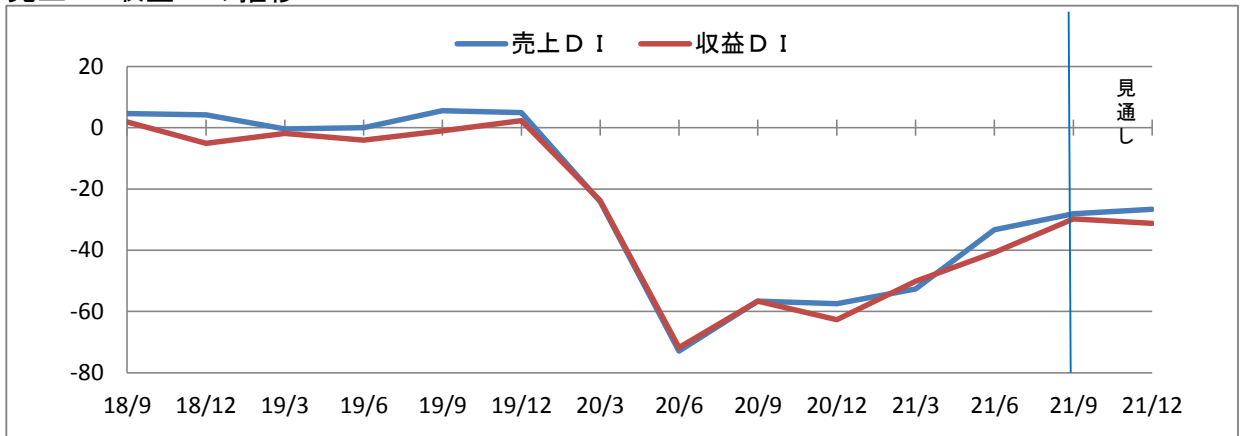
医療業界は、新型コロナ感染症による影響で患者数が減少し経営状態が悪化しています。また介護業界では、ワクチン接種が進んでいますが、コロナ禍での事業の進め方に不安を抱えたままです。

2021年10-12月期は、売上D Iが1.5ポイント上昇し、収益D Iが1.5ポイント下落すると予想し、事業の再開に向けどのような方策が必要なのか、模索が続いています。

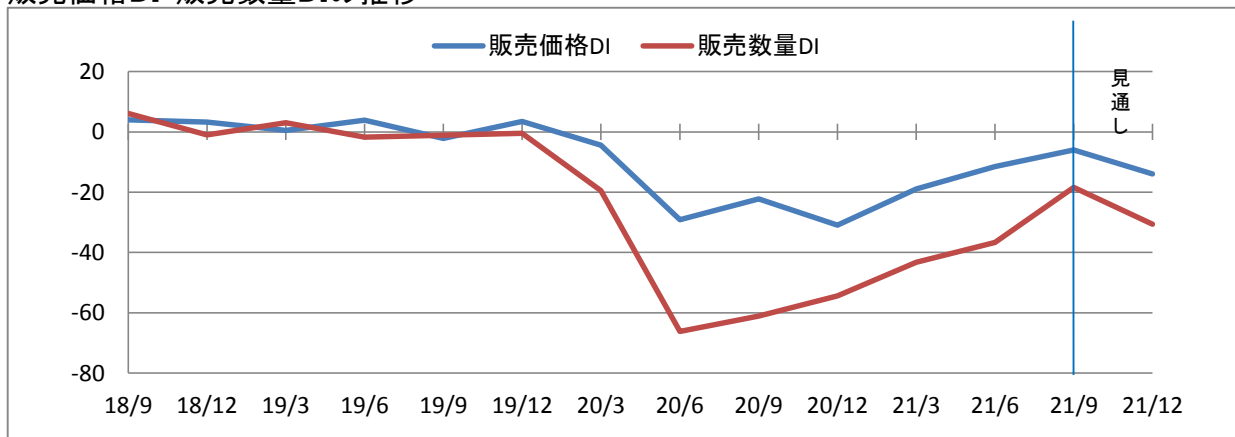
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が65.0%（前环比△1.2ポイント）、「人手不足」が50.0%（前年比+8.4ポイント）に上昇し、人手不足感が強まっています。

設備投資は「実施中」が16.4%（前环比+7.2ポイント）、「予定あり」が13.1%（前环比△1.4ポイント）で合計29.5%となりました。内容は、「機械等の保守更新が」50.0%、資金調達方法は「全て自己資金」が49.9%となり、事業再開に向け積極的な設備投資を行っています。

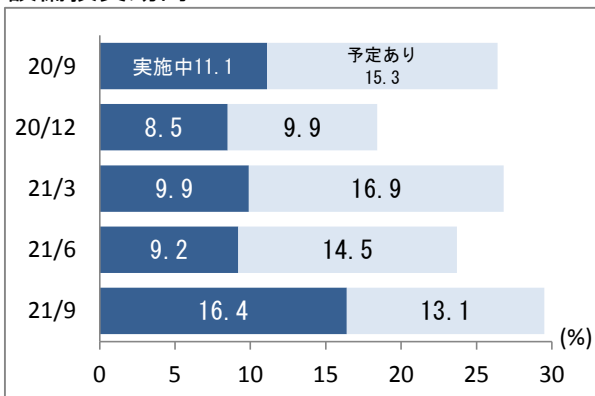
売上DI・収益DIの推移



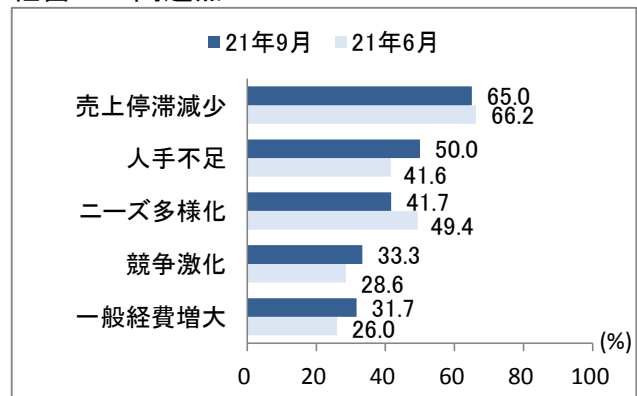
販売価格DI・販売数量DIの推移



設備投資動向



経営上の問題点



(中小企業診断士: 芝田、楠)

運輸業

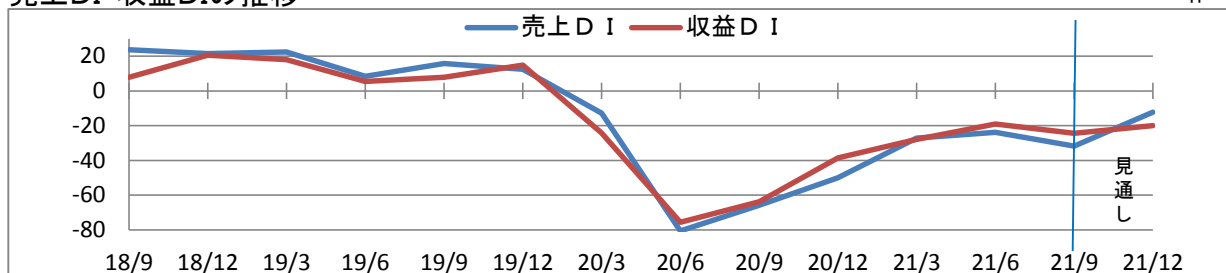
物流量減少 宣言解除に期待

売上D Iは-31.7（前回比△7.8ポイント）、収益D Iは-24.4（前回比△5.3ポイント）とともに下落しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは19.5ポイント、収益D Iは17.1ポイント下振れし、緊急事態宣言延長による影響が大きく出ています。2021年10-12月期は、売上D Iが19.5ポイント、収益D Iが4.4ポイントそれぞれ上昇すると予想し、宣言解除と年末商戦に期待しています。

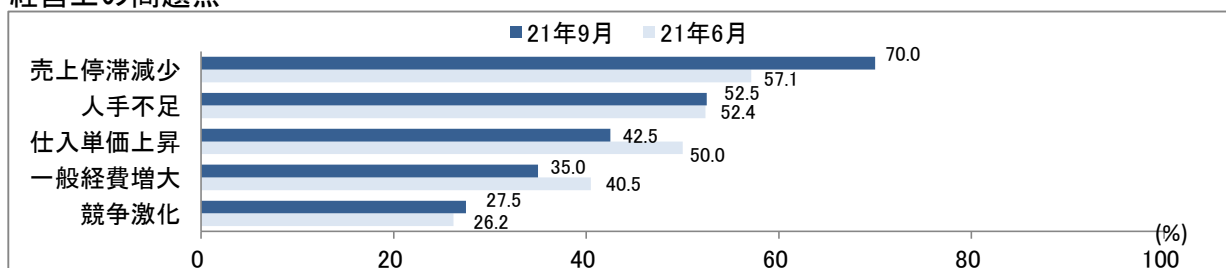
経営上の問題点は、「売上停滞減少」が70.0%（前回比+12.9ポイント）に急伸し、一刻も早い宣言解除と全業種の経済活動再開が待たれます。

売上DI・収益DIの推移

n=42



経営上の問題点



(中小企業診断士:萩原、福井)

不動産業

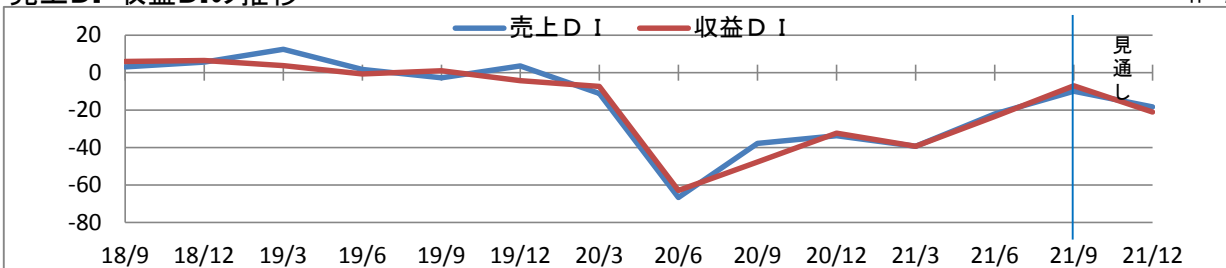
競争激化 続く価格高止まり

売上D Iは-9.9（前回比+12.2ポイント）、収益D Iは-7.1（前回比+16.3ポイント）とともに上昇しました。前回調査時の7-9月の見通しから売上D Iは8.5ポイント、収益D Iは10.0ポイント上振れました。不動産価格は高止まりし、商品物件の購入に苦慮しています。

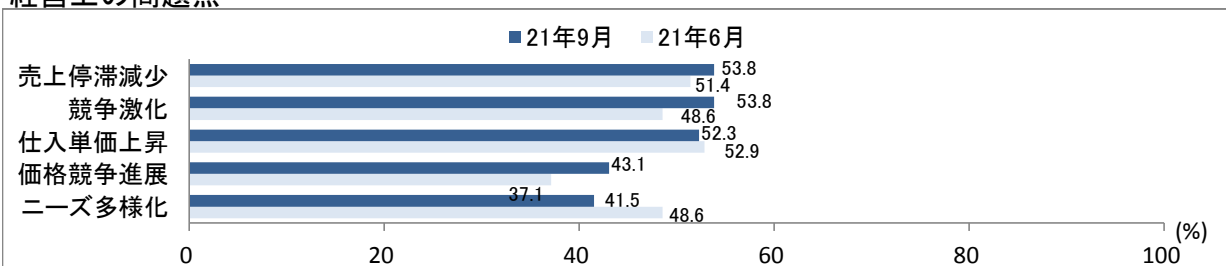
経営上の問題点は、「売上停滞減少」（前回比+2.4ポイント）と「競争激化」（前回比+5.2ポイント）が53.8%、「仕入単価上昇」が52.3%（前回比△0.6ポイント）となり、多岐に亘る経営課題への対応が求められています。

売上DI・収益DIの推移

n=71



経営上の問題点



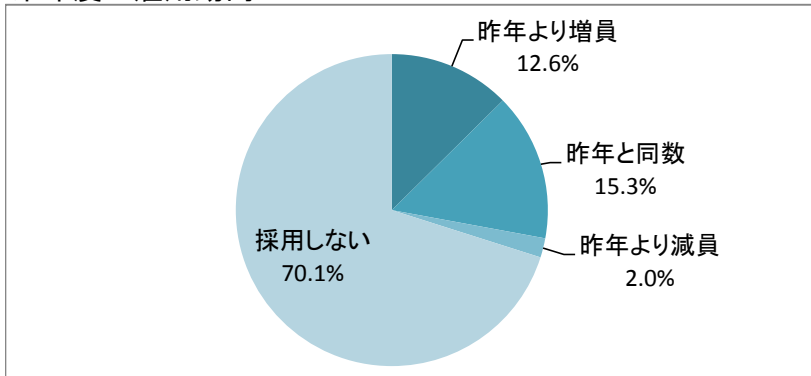
(中小企業診断士:芝田、竹並)

来春の採用について

高まる採用意欲 宣言解除に期待

来年度の雇用動向

n=692

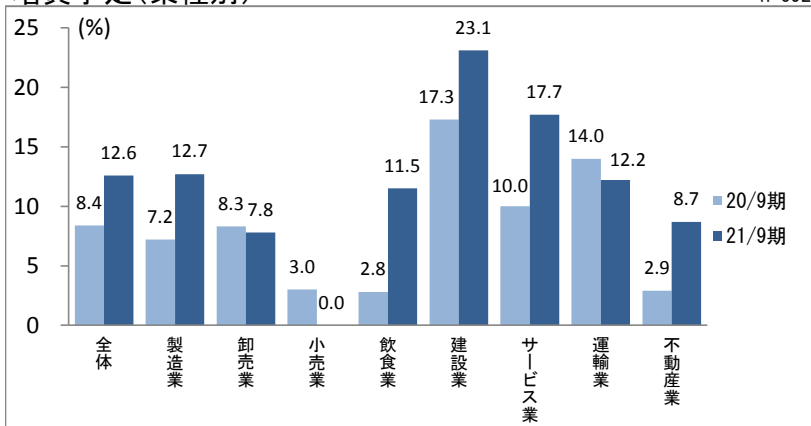


「採用する」は29.9%、「採用しない」は70.1%となり、採用に前向きな企業が前年

(23.5%)より増加しました。採用する企業のうち、「昨年より増員」は12.6% (前回比+4.2ポイント)、「昨年と同数」は15.3% (前回比+3.6ポイント)、「昨年より減員」は2.0% (前回比△1.4)となり、増員を考える企業が増加しています。ワクチン接種率が上昇し、経済活動の再開に期待していると思われ

増員予定(業種別)

n=692

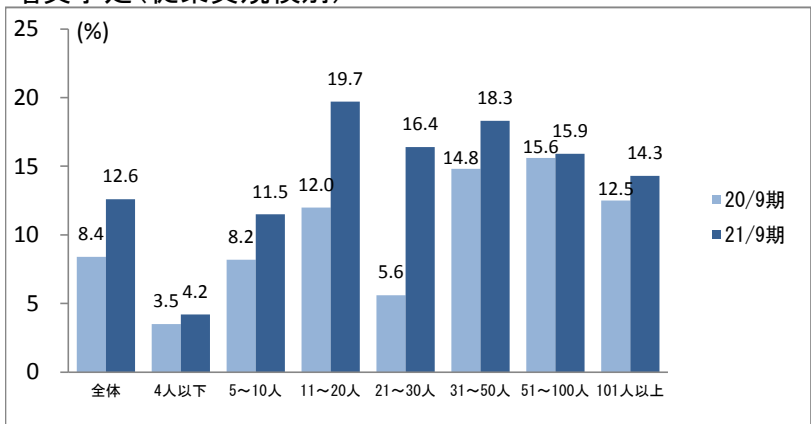


「昨年より増員」と回答した企業を業種別に見ると、建設業が23.1%、サービス業が17.7%、飲食業が11.5%と前回からそれぞれ5.8ポイント、7.7ポイント、8.7ポイント上昇しました。

これらの業種では、かねてからの人手不足感に加え、緊急事態宣言解除後の経済活動再開に備えていると思われ

増員予定(従業員規模別)

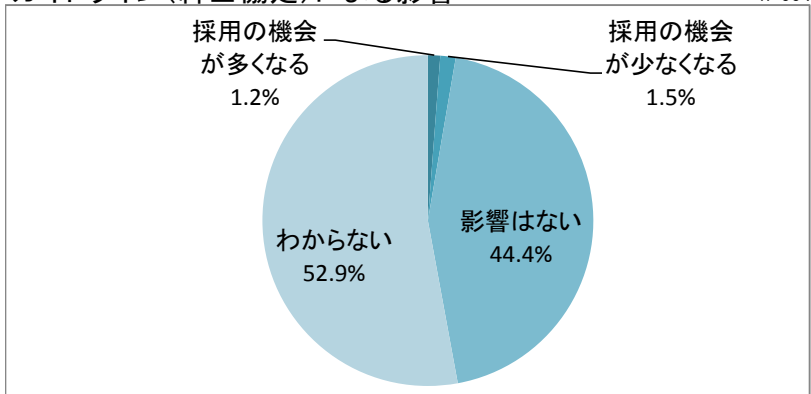
n=692



「昨年より増員」と回答した企業を従業員規模別に見てみると、全ての階層で上昇し、特に「11~20人」が19.7% (前回比+7.7ポイント)、「21~30人」が16.4% (前回比+10.8ポイント)、「31~50人」が18.3% (前回比+3.5ポイント)と大きく上昇しています。

ガイドライン(紳士協定)による影響

n=664



経団連が示すガイドライン(紳士協定)が採用に及ぼす影響について、「影響はない」が44.4%、「わからない」が52.9%となり、採用機会に与える影響は小幅に止まっています。